

使命／ミッション

浜松科学館は、科学を入り口とした多様な文化交流を通して人々をつなぎ、

地域への誇りと愛着をもとに、創造都市を牽引する科学館となることを目指します。

さらに、誰もが科学を楽しみ、安心して学ぶことができ、ひとりひとりの好奇心を育む場として地域に開かれた科学館となります。

事業目標	重点戦略	重点指標
<p>・事業目標 1 <u>創発的な学びの場を構築</u></p> <p>浜松科学館は、多様な利用者それぞれに向けた科学教育のコンテンツを自ら作り上げ、コミュニケーションを重視した創発的な学びの場を構築します。</p>	<p>1 何度訪れても新たな気付きや発見を得られる学びの場をつくるために、交流や体験を重視したコンテンツを拡充させる</p> <p>2 内製化された企画を切れ目なく展開し、年間を通じて集客を平準化させ、利用者の体験の質を高める</p> <p>3 ターゲットを明確にし、連続性をもたせた企画を行うことで、より深い学びを得られる機会を創出する</p>	<p>1 常設展入場者数の状況 （※定量的な経年比較）</p> <p>2 新規利用者とリピート利用者のバランスをとり、年間を通じて常設展入場者数を平準化 ↓</p> <p>3 利用者アンケート来館頻度の回答 （変動率±10%）” ①初めて ②昨日～半年前 ③半年～1年前 ④1年～3年前 ⑤3年以上前</p>
<p>・事業目標 2 <u>地域に開かれ、市民に愛される科学館づくり</u></p> <p>浜松科学館は、公共施設として利用者だけでなく地域全体に開かれた場をつくり、職員が地域と積極的に関わりをもち、市民に愛される科学館となります。</p>	<p>4 公共施設として、利用者だけではなくボランティア活動や連携を通じて地域全体に開かれた場をつくり、より多くの人に親しみをもってもらう</p> <p>5 職員の地域に対するコミットメントを強め、科学館ならではの切り口で、浜松地域の魅力を発信する</p>	<p>4.1 特別展・企画展の利用頻度 4.2 サイエンスショーやミニワークショップ等の催しへの参加率 4.3 プラネタリウム観覧率 （※定量的な経年比較）</p>
<p>・事業目標 3 <u>協働による新たな視点の提供と地域固有の価値向上</u></p> <p>地域固有の価値を高めるために、さまざまなパートナーと協働することで浜松科学館ならではの新たな視点を提供していきます。</p>	<p>6 市民や教育機関、地元企業等と科学館との間のより良い関係を構築し、共通の目的をもって協働を進める</p> <p>7 オウンドメディアのさらなる充実により、情報的確実に利用者や市民に届け、集客につながるリブランディングに取り組む</p> <p>8 最も重要な経営資源である職員のモチベーションや創造性、チームワークを高めるような組織マネジメントを行う</p>	<p>5 市内小学校の利用頻度</p> <p>6 ボランティアがどのような価値を見出すか （※定性的な評価）</p> <p>7 協働パートナーがどのような価値を見出すか （※定性的な評価）</p>
<p>・事業目標 4 <u>持続可能性の向上を目指した適正なマネジメント</u></p> <p>浜松科学館は、施設の持続可能性を向上させるため、設備やコンテンツ、人的資源を適正にマネジメントし、独立性の高い経営を行います。</p>	<p>9 施設の持続可能性を向上させる長期的な視野のガバナンスを進め、政令市のミュージアムとして全国的な存在感を強める</p> <p>10 市民にとっての施設価値を見定め、それを提供するために、計画や評価の過程で、市民に関与してもらう仕組みをつくる</p>	<p>8 企画展等の催しに地域性を反映させ、価値創出できているか （※定性的な評価）</p> <p>9 職員が意欲をもって働ける職場環境であると認めているか （※定性的な評価）</p> <p>※定性的な評価とは、アンケート調査や面談による非定量的評価を指す</p>